

イベントレポート 『2010 K耐久東海シリーズ 第3戦』 4時間耐久

開催日 2010年7月11日(日)

9:30 決勝スタート 13:25 チェッカー

天候 曇り一時雨

最高気温 26.5 (12時)

場所 スパ西浦モーターパーク

エントリー台数 33台

2010年7月11日(日)愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにおいて、2010K耐久/GT耐久東海シリーズの第3戦が行われた。

梅雨ということで、この日の降水確率は午前中が40%、午後が70%。7:00のゲートオープン時は曇りであったが、朝のブリーフィング時には小雨がぱらつき始め、路面はやや湿った状態で予選を迎えることになる。

また、決勝時間は今回のみ4時間で普段よりも1時間長く、義務ピットイン回数も4回となっている。暑さの心配はないものの、滑りやすい路面の中でいかにコースアウトせず完走できるかがポイントとなりそうである。



KNCクラス(軽NAのクローズドクラス)

今回は14台のエントリーとなったこのクラス。第2戦の16台からは減ったものの、相変わらずの激戦区。毎戦上位の数チームは同一周回数でフィニッシュする僅差での勝負となっているが、今回は4時間の長丁場。どのような展開になるのか。

予選

予選開始時には路面はややウエットの状態であったが、走行が始まると間もなく路面は乾いてくる。予選のタイム計測は、フリー走行のラスト5分のみ。タイム計測5分に向けて、各チームとも徐々にペースを上げてくる。

予選1番時計を叩き出したのはNo.23「カーケアオフィストゥデイ」。タイムは1'06.444とこのクラス唯一の6秒台をマーク。

2番手は黄緑色が眩しいNo.36「Jレーシングユーロトゥデイ」が1'07.198で入る。

続く3番手から10番手までの8台は、なんと予選総合結果の11位から18位までの間に連続して入るという接近戦。

この接近戦の先頭となる3番手はNo.236「タカタCCMCトゥデイ」で1'07.489のタイム。

ここから0.07秒の僅差でNo.10「ぼんこつトゥデイ」が4位、さらに0.04秒の差でNo.85「FオートワコースDXLトゥデイ」が5位に入る。

続く予選6位にはビート勢でのトップとなるNo.87「CAL RACERビート」が入り、タイムは1'07.922をマーク。

ここからまた僅差となるが、6位と0.04秒差での7位にはNo.99「モノコックボディートゥデイ」、さらに0.03秒差でNo.50「ベストライフトゥデイ」、さらに0.06秒差でNo.127「アンティスネコマルトゥデイ」、さらに0.12秒差でNo.48「真和コーギーライツBEAT」と続き、F1の予選結果を彷彿とさせるような接近戦が繰り広げられる。



序盤

今回のレースは決勝が4時間の長丁場。1時間が経過しても、まだレースの4分の1を消化したにすぎない。

1時間経過時点での1位は予選2番手からスタートのNo.36「JKレーシングユーロトゥデイ」。1回目のピットインを引っ張る作戦で、50Lapを周回する。

2位以下のチームは既に1回目のピットインを終えているが、2位から6位までが46Lapの同一周回。

2位 No.85「FオートワコーズDXLトゥデイ」、3位 No.10「ぼんこつトゥデイ」、4位 No.236「タカタCCMCトゥデイ」、5位 No.99「モノコックボディートゥデイ」、6位 No.87「CAL RACERビート」の順で続く。

さらに、7位から11位までは45Lapの同一周回。6位までとは周回数異なるものの、タイム差はほとんど無いので上位11台は団子状態のようなもの。

7位は予選1番手スタートのNo.23「カーケアオフィストゥデイ」、8位 No.127「アンティスネコマルトゥデイ」、9位 No.48「真和コーギーライツBEAT」、10位 No.50「ベストライフトゥデイ」、11位 No.38「デモリッションエグゼットゥデイ」と続く。

中盤

2時間が経過した時点で、決勝はようやく折り返し地点。

この時間での1位はなおもNo.36「JKレーシングユーロトゥデイ」。このクラスで唯一ピットインを1回しか消化しておらず、ラップ数は95周をマーク。

2位以下は2回のピットインを消化しており、91周に2位のNo.236「タカタCCMCトゥデイ」と3位のNo.85「FオートワコーズDXLトゥデイ」が位置する。

続く4位から8位は90周の同一周回。4位にNo.99「モノコックボディートゥデイ」、5位にNo.127「アンティスネコマルトゥデイ」、6位にNo.10「ぼんこつトゥデイ」、7位に6位「CAL RACERビート」、8位にNo.50「ベストライフトゥデイ」と続く。

終盤

3時間が経過した時点でもNo.36「JKレーシングユーロトゥデイ」がトップの座を守る。125周をラップし、総合でも2位につける。

続く2位から4位までが120周で並ぶが、僅差のクラスゆえ優勝を狙えるのはこの辺りまでか…。

2位にはNo.236「タカタCCMCトゥデイ」、3位にはNo.99「モノコックボディートゥデイ」、4位にはNo.85「FオートワコーズDXLトゥデイ」のオーダー順で続く。

5位以下9位までは119周での争い。5位 No.127「アンティスネコマルトゥデイ」、6位 No.50「ベストライフトゥデイ」、7位 No.23「カーケアオフィストゥデイ」、8位 No.10「ぼんこつトゥデイ」、9位 No.87「CAL RACERビート」となる。

1時間ごとの経過を見ると上位勢の顔ぶれは同じものの、微妙に順位が入れ替わっているところからも、実力が伯仲している様子が伺える。



最終結果

終盤までトップを走っていた No.36「JKレーシングユーロトゥデイ」はラスト 15 分に最後のピットイン。しかしこのタイミングに赤旗が重なり計算が狂うことに…。

最終的に接近戦のKTCクラスを制したのは、No.99「モノコックボディートゥデイ」で 158 周を記録。これで第 2 戦に引き続き、2 連勝を達成した。

続く 2 位は常に上位を維持し続けた、No.236「タカタCCMCトゥデイ」が 157 周で、3 位はそこから遅れること 28 秒の同一周回で No.85「FオートワコーズDXLトゥデイ」が入る。

3 位からわずか 5 秒遅れでの 4 位には、終始トップを走っていた No.36「JKレーシングユーロトゥデイ」が入った。以下、5 位から 8 位は 156 周の同一周回でのフィニッシュ。

5 位 No.23「カーケアオフィストゥデイ」、6 位 No.87「CAL RACERビート」、7 位 No.50「ベストライフトゥデイ」、8 位 No.127「アンティスネコマルトゥデイ」と続いた。

今回優勝した No.99「モノコックボディートゥデイ」は、レギュレーションにより第 4 戦では 40Kg のハンディーウエイトを搭載することになる。

第 3 戦で 40Kg のハンディーウエイトを搭載した 2 チームとも今回は優勝を逃しており、40Kg のハンディーウエイトがどう響いてくるのかが注目される。



KNOクラス(軽NAのオープンクラス)

No.223「ヤマモトリングトゥデイ」が出走出来なかったため、今回は 2 台での争いとなったこのクラス。開幕戦から圧倒的な強さで 2 連勝を飾っている No.126「アンティスネコマルトゥデイ」が 3 連勝を果たすのか。

予選

予選 1 番手は開幕 3 連勝を狙う No.126「アンティスネコマルトゥデイ」。タイムは 1'04.980 で総合でも 2 位に付ける。

2 番手は No.211「白須賀会トゥデイ」で予選は慣熟走行に徹し、タイムは 1 15.322..



序盤

スタート直後は総合1位のターボクラスのマシンとテールトゥーノーズでギャラリーを沸かせたNo.126「アンティスネコマルトゥデイ」。

1時間を経過した時点では47周を走り、総合では5番手のポジションに付ける。

2位のNo.211「白須賀会トゥデイ」は41周と、6週の差を付けられる。



中盤

決勝の半分となる2時間経過時点では、No.126「アンティスネコマルトゥデイ」が92周でなおも1位をキープする。2位を走るNo.211「白須賀会トゥデイ」は82周をラップする。

終盤

3時間が経過してもなお、No.126「アンティスネコマルトゥデイ」が1位の座を守る。119周を走行して総合では10番手のポジションに付ける。2位のNo.211「白須賀会トゥデイ」は110周とトップとの差を保ち追いかける。

最終結果

終始2位を引き離したNo.126「アンティスネコマルトゥデイ」であったが、最終的に161周を走りきり、見事1位の座を獲得した。総合順位争いでは、ラスト数周までトップを走行していたものの、強く降り始めた雨に苦しみ、ターボクラスのマシンにかわされて惜しくも2位となった。

クラス2位はNo.211「白須賀会トゥデイ」で、144周をラップ。今回獲得したポイントで、シリーズポイント争いも2位の座が見えてきた。

No.126の連勝記録は果たしてどこまで続くのか!?



KTCクラス(軽ターボのクローズドクラス)

今回はエントリーが増えて、過去最多の9台となったこのクラス。開幕戦と第2戦では優勝チームが変わっているが、今回もさらに別のチームが勝利するのか。それとも2度目の優勝を収めて、シリーズポイント争いで頭一つリードするチームが出てくるのか。

予選

予選1番手のタイムを叩き出したのはNo.14「ガレージシヤマアルトバン」。前回優勝によるハンディーウエイトをもものともせず、1'04.605をマークして総合でも1位となるポジションを獲得する。

2番手となったのはNo.210「ZEST Sprightアルト」でタイムは1'05.923。このチームはここまで2戦とも表彰台に乗っており、安定した速さが光る。

3番手はNo.27「田中オートイエローアルトDXL」で1'08.691をマーク。開幕戦で優勝したものの第2戦は欠場。2度目の優勝を狙う。

以下4位にNo.15「ガレージシヤマTTSセルボ」、5位に初参加のNo.392「Zammersヴィヴィオ」、6位にNo.21「ZEST Sprightセルボ」と続く。



序盤

1 時間経過時点では、ピットインのタイミングを遅らせた No.14「ガレージシヤマアルトバン」が 51Lap で頭一つリードする形に。

これを追う 2 位は No.210「ZEST Sprightアルト」で 47Lap を周回するが、既にピットインを 1 回済ませているために、実質の差は 1 周も無い計算になる。

3 位には No.27「田中オートイエローアルトDXL」が 46Lap で付け、予選上位のチームがそのまま上位をキープする。

4 位には予選 6 位から順位を上げた No.21「ZEST Sprightセルボ」が続くが、44 周とやや水を開けられる。

以下、5 位に初参加の No.82「東海麗神愚・アドバンせるぼー」が 42Lap、6 位に No.5「MOTORNETアルトワークス」が 41Lap で続く。



中盤

2 時間を経過した時点でもなお No.14「ガレージシヤマアルトバン」がトップの座を守り、周回数は 94 周。

ここから 2 周差での 2 位は No.210「ZEST Sprightアルト」、さらに 2 周差での 3 位は No.27「田中オートイエローアルトDXL」と、1 時間時点と同様のオーダーとなる。

4 位の No.21「ZEST Sprightセルボ」も 88Lap で、表彰台を狙えるポジションに付ける。

5 位以下は少し周回差が付いてしまうが、5 位 No.82「東海麗神愚・アドバンせるぼー」が 77 周、6 位 No.392「Zammersヴィヴィオ」が 76 周、7 位 No.15「ガレージシヤマTTSセルボ」が 75 周、8 位 No.5「MOTORNETアルトワークス」が 73 周と、トロフィーを懸けた争いを繰り広げる。

終盤

3 時間経過で残すところ 1 時間。この時点でもトップはなお No.14「ガレージシヤマアルトバン」で 124 周を周回。

2 位の No.210「ZEST Sprightアルト」は 123 周でその差はわずか 1 周。

3 位には No.27「田中オートイエローアルトDXL」が付けるがラップ数は 120 周で、優勝争いは上位の 2 チームに絞られた感が。

4 位の No.21「ZEST Sprightセルボ」は 117 周と、表彰台が微妙なポジション。

5 位は 3 台による僅差の争い。No.82「東海麗神愚・アドバンせるぼー」が 104 周で一歩リードするが、No.15「ガレージシヤマTTSセルボ」と No.392「Zammersヴィヴィオ」が共に 103 周で、5 位まで与えられるトロフィーを懸けて最後まで熱い戦いを繰り広げる。

最終結果

ポールスタートの No.14「ガレージシヤマアルトバン」が、結局一度もトップの座を譲ることなく、前回に引き続き優勝を飾った。周回数は 161Lap で、総合でも 1 位と獲得した。

2 位は No.210「ZEST Sprightアルト」で、トップとの差はわずかに 1 周。スタートから常に 1 位を射程圏内に捉えてはいたが、相手もミスをせずあと一歩届かなかった。

3位には157周を走りきったNo.27「田中オートイエローアルトDXL」が入った。開幕戦以来の優勝とは行かなかったが、3位表彰台を獲得しシリーズポイント争いでも上位をキープした。

4位のNo.21「ZEST Sprightセルボ」は154周と検討はしたが表彰台には一步届かなかった。

5位にまで与えられるトロフィーをギリギリGETしたのはNo.15「ガレージシヤマTTSセルボ」。139周と4位からは少し差を付けられたが、嬉しい5位と言えるであろう。

以下6位に137周でNo.82「東海麗神愚・アドバンせるぼー」、7位に136周でNo.392「Zammers ヴィヴィオ」と初参加の2台が続き、惜しくも初参加でのトロフィー獲得とはならなかった。

2連勝を飾ったNo.14「ガレージシヤマアルトバン」だが、次回第4戦では40Kgのウエイト搭載が義務付けられるため、次戦は他チームにとってチャンスといえるだろう。



KT0クラス(軽ターボのオープンクラス)

今回は6台のマシンがエントリー。このうち3台はカプチーノと、ウェット路面での扱いが難しいマシンだけに、雨の状況も気になるところ。また、開幕より2連勝のNo.8「チームグローバルカプチーノ」は40kgのウェイトハンディーを積んでの走行であり、これに付け入るチームは出て来るのか。

予選

予選1番手となるタイムを出したのは、No.26「タナカオートDXLカプチーノ」でタイムは1'05.537。開幕戦以来のエントリーであったが、いきなり1番手のタイムを叩き出し存在感をアピールする。

2番手はNo.192「DXLメビウスセルボモード」で、1位とのタイム差は僅かに0.13秒。開幕より2位、3位と優勝まであと一歩のところまで来ているが、今回は絶好のグリッド位置に付ける。

3番手はNo.8「チームグローバルカプチーノ」でタイムは1'06.638。40Kgのウェイトハンディーを感じさせないタイムを叩き出すが、ウェイトが4時間後にどう効いてくるか。

4番手には3位から0.16秒差でNo.55「アビリティーガレージワークス」が入る。このチームも開幕より3位、2位と好成績を収めており、今回こそはといったところか。

以下5位にNo.666「ヴィスコンティ|MWあると」が1'07.395、6位No.437「Legendカプチーノ」が1'08.945と、混戦を予感させるタイム差の中に、全チームが入ってくる。

序盤

1時間経過時点では、1回目のピットインを先延ばししたNo.8「チームグローバルカプチーノ」が50Lapで1位に、No.192「DXLメビウスセルボモード」が48Lapで2位に立つ。

続く3位からは1回目のピットインを既に終えたチームが続く。3位と4位のNo.26「タナカオートDXLカプチーノ」とNo.666「ヴィスコンティ|MWあると」は同一の46LAP。

5位のNo.437「Legendカプチーノ」は43Lapを周回。

6位のNo.55「アビリティーガレージワークス」は、排気音量対策のためにサイレンサー取り付けに時間を要し、40Lapと大きく出遅れてしまう。

中盤

2時間の時点でも、2回目のピットインを引っ張ったNo.192「DXLメビウスセルボモード」が97周と頭一つリードする。

これを追う2位はNo.8「チームグローバルカプチーノ」で91Lapを周回。

さらに3位のNo.26「タナカオートDXLカプチーノ」と4位のNo.666「ヴィスコンティ|MWあると」は共に90Lapで並び、スタートより常に僅差で3位を争い続ける。

5位のNo.55「アビリティーガレージワークス」は好タイムで追い上げるが、序盤の遅れが響き83周にとどまる。

また、No.437「Legendカプチーノ」は2時間が経過しようかというタイミングで、マシントラブルによりリタイヤとなってしまう。



終盤

3時間を経過したところでの1位はNo.192「DXLメビウスセルボモード」で126周をLap。続く2位はNo.8「チームグローバルカプチーノ」で124周をLapするが、この2チームは共にまだ2回のピットインが残っている。

3位のNo.666「ヴィスコンティBMWあると」は119周をLapしているが、残りのピットは1回と、見かけほどの周回差は開いていない。

また、4位のNo.26「タナカオートDXLカプチーノ」も118周と、まだまだ表彰台を狙える位置に付ける。

5位のNo.55「アビリティーガレージワークス」は111周と、その差は開いてはいないものの、当初に付けられた差がそのまま残るかたちに…。



最終結果

チェッカーまであと13分、というところでコースアウト車両の処理のため、レースは赤旗中断となる。このタイミングで同一周回数であったNo.8「チームグローバルカプチーノ」と、No.192「DXLメビウスセルボモード」が接近して停車するフォーメーションに…。

ラスト4分でレース再開となり、残りはわずか3周か多くとも4周…。この状況の中で、No.192「DXLメビウスセルボモード」がNo.8「チームグローバルカプチーノ」をかわし、終了直前に逆転での勝利を飾った。

No.8「チームグローバルカプチーノ」は惜しくも開幕3連勝を逃してしまったが、40Kgのウエイト搭載と雨天であることを考えれば、大健闘の結果といえよう。

3位にはNo.666「ヴィスコンティBMWあると」がトップから3周遅れの156周で入る。昨年までAT車で孤軍奮闘していたが、今年から投入したMTミッションがようやく奏功し、悲願の表彰台をGETした。

4位はNo.55「アビリティーガレージワークス」が147周でフィニッシュ。序盤のサイレンサー取り付けのタイムロスがあったが、シリーズを追いかける上では大きな10ポイントを獲得した。

No.26「タナカオートDXLカプチーノ」は終盤まで3位争いを繰り広げていたが、残り25分の時点でマシントラブルでチェッカーを受けることが出来なかった。しかし、規定周回数には達していたため、5位のポイントは獲得となった。今回2位に終わったがNo.8「チームグローバルカプチーノ」のシリーズポイント争いの優位は変わらない状況。しかし、他のチームも接近した速さを持っているため、シリーズの行方はまだまだわからない。



KWTクラス(軽ワゴントラッククラス)

今回のエントリーも No.2「クリエイター(お暇組)ワキアイ」1 台のエントリーとなったこのクラス。今回は女性ドライバーをはじめとする初参加のドライバーで臨み、参加車両名の通りエンジョイする布陣での参加となった。

そのような背景からもフリー走行は慣熟走行に徹し、タイムは 1'27.791。31 番グリッドからのスタートとなる。スタートから 1 時間。ラップはいつもの百戦錬磨のドライバーと比べるとやや遅いため、総合順位は 30 位にとどまる。

それでも 2 時間経過時点では順調にラップを重ね、総合 26 位までポジションを上げる。

この直後にコースアウト車両の処理で赤旗中断が入る。この中断からのレース再開直後、冷えたタイヤに足をすくわれたか、1 コーナーでまさかの横転。車両は右側が破損したものの幸い大事には至らず、見事な復旧作業によりレースに復帰する。

このような大きなアクシデントに見舞われながらも、トータルで 101 周を走りきり、総合では 29 位でのフィニッシュとなった。

KWTクラス・新規格軽・A/T車といったハンディーある車両で頑張る No.2「クリエイター(お暇組)ワキアイ」。ぜひとも第 4 戦で復活した姿を見たいものである。

